

## 助成事業実施報告書

団体名山都の食を考える会

代表者・役職名 会長 氏名竹下美敬

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

子ども・地域食堂「あるもんで」

### 2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

他地域との連携を取りながら山都町でも子ども食堂を開設しました。その背景には独居老人や子供たちの「孤食」や食生活の乱れ、また県外から入寮している県立高校生の、土、日の食事の心配と、高齢者のバス利用で帰りの時間調整する場所がないことなどがあります。

「食」を通じた世代間交流の場として高齢者、共働きやひとり親の子供たち、移住者、子育て世代が気軽に集え、誰もが自由に対話や交流を通じ、「暮らしやすさや生きやすさ」を体感し、世代間を通じて文化や食を継承している場所としたいです。

### 3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

「結果」 実施回数定期食堂 11回・土日食堂 32回 参加者 602名

「成果」 子ども食堂の認知度が上がってきたと感じます。現金、野菜等の寄付が役に立てばと増えてきています。弁当を作って移住者交流会に参加。交流会の中の有機野菜を取り扱う地域の会社から、定期的に余剰野菜がとどくようになりました。また真如苑様から、ご寄付いただいたたくさんのお菓子を子供のいる家庭に1箱ずつお渡ししました。子どもも親も大喜びでした。家族の方から「こんなにさせていただいて」と真剣に感謝の言葉も頂き、真如苑様に改めて感謝です。

「社会的な変化」 運営資金の心配をされ仕組みを尋ねられる方も多くなりました。地域のロータリークラブ、商工会などから困っていることは何かと問い合わせがあり役に立ちたいとの声かけも多くなりました。とうふ 工房などから、規格外の寄付も多くなり、フードロスにも貢献できていると思います。

### 4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

なんといってもコロナの感染状況がありました。計画を始めたころは少し落ち着いていましたが、今期は夏休みを前倒しするくらい子どもの感染が多くなり毎週感染状況に一喜一憂の日々で結局、希望者に弁当の形でしか渡せず、当初計画したものは別物になってしまいました。地道に活動する子ども食堂に好感の目は向けていただきました。また、交流の場所として活用できるよう少し手入れをきれいにしたのですが、最初は主催側の体制が整わず、というかボランティアがおらず、ふらっと茶飲み場にはできませんでした。責任をもって動いていただくには、賃金を出さないためなのかと考えています。5年度の事業計画で改めて検討します。現在食堂開催日に借用している会場も来年度から子ども食堂で1軒丸ごと借りることができるようになります。

他の団体の使用を気にすることなく活用できるようになるので、この事業で達成できなかったことを、充実していきたいと思います。

4月から若い女性が、会場を借りて「おにぎり屋」を始めることになりました。このことを足掛かりにみんなの集う場所となる体制が整いそうです。

### 5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

